

初めてのウズベキスタン訪問

松浦 不二雄

八月二三日から二六日、ウズベキスタンのタシケントとサマルカンドでウズベキスタン文化遺産の保存・研究・普及のための世界協会が主催する第八回国際会議「The Heritage of Great Ancestors - The Foundation of The Third Renaissance」(偉大な祖先の遺産 - 第三次ルネサンスの基盤) が開催されました。この大規模な催しに幸運にも顧客であり友人のラブチェフ・セルゲイ氏の紹介により参加することができました。彼は同国の副首相アブドラ・ハキモフ氏と親交が有り(私も以前同国大使館主催のパーティーが行われた



国際会議のプログラム

折に名刺交換をする名譽にあいまして、この方と同国文化庁主催の行事に招待を受け、国賓待遇とまでいかなくても旅費その他の経費全てを同国の支払いという大変な厚遇を受けて参加することができました。首都タシケントの空港で荷物を待っている若くて綺麗な女性が「ミスター松浦か」と声をかけてきて、「これからサマルカンドに移動します、駅まで案内します」となりました。私は内容を聞いていなかったのでびっくりしつつ、往復の乗車券を受け取り迎えるの車に乗り込むと今まで乗ったことのない高級ベンツ、さすが待遇が違うと感激。途中でコーヒーでも飲みましようと思ち寄った店は市内で一番の店と言われているそうです。彼女がこの二日間多忙で食事でも睡眠も十分取れていないと言ひ、何か食べますかと聞かれ

たが、私はコーヒーで十分でした。彼女は豆のスープとパンを少し取り、出発までの間、十本以上の電話を掛けたり受けたりでした。駅に着き指定の列車に乗ると、なんと日本の新幹線と同じ一列三席、そして革張りのVIPグリーン車です。走り出してしばらくすると食事が提供され「いくらですか」と尋ねるとなんと無料、そのうえ暖かいコーヒー、紅茶のサービスも有りました。二時間半でサマルカンドに到着。ここでもまた紙に私の名前を書いた男性が待っていて、ホテルまで案内してくれました。早速チェックインしようとしたら「貴方は明日のチェックインとなっております」と言われてしまったのですが、コンGRES(会議)に参加するために来たのだからと話すと、少し待ってくださいとのこと。数分後、「部屋が用意できました」と案内されました。

部屋に入るとキングサイズのベッド、長椅子、大型の液晶テレビ、カーテンは電動、ウォシュレットトイレとここまでは良いが風呂はシャワーのみ。外国ではよくあることです。朝目を覚ますと眼下にポートレース場、一人オールドを漕いでいました。ホテルの朝食はビュッフェスタイルでパンが十数種類、ハム、ソーセージ、チーズなどが沢山、生野菜サラダ、果物、ヨーグルト、ピクルス、食後のスイーツなども何種類も用意されていました。変わり種は生ニンニクの酢漬けオリーフ油漬けでした。さて会場はというとその辺の催事場、或いは美術館、博物館とは比べ物にならない程素晴らしい建物でした。主催者が招待した方々は何カ国にもおよび、〇〇大学教授、博士、〇〇考古学博物館館長、或いは副館長、宗教指導者など多岐にわたり、とても素晴らしい会でした。会場内には今まで発行された同国の書籍などが多く展示されていて、中にはガラスケースに



客室から望む
ポートレース場